

成果の説明書

(氏名) 齋川貴嗣	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 日本における国際連盟研究の組織化</p> <p>研究分担者として実施してきた科研費研究課題「アジア太平洋における国際連盟—新たな国際連盟史研究の構築と発信」(17H02496)に関し、2020年1月に早稲田大学にて国際ワークショップを開催した。ワークショップでは、本科研の最終成果として出版予定である英文論文集の寄稿者が集い、各自のペーパーを報告するとともに、東アジアの視点から見た国際連盟の特質に関する議論が集中的に行われた。現在 Routledge 及び Oxford University Press と交渉中であり、2021年度中の出版を目指している。</p> <p>Takashi Saikawa, “Intellectual Entanglements between the League of Nations and East Asia: Modernism or Anti-Modernism?”, International Workshop ‘The League of Nations and East Asia: Globalism, Empires, and Inter-civilization’, Waseda University, Tokyo, 11 January 2020.</p> <p>➤ その他</p> <p>以下の書評が出版された。</p> <p>齋川貴嗣「新刊紹介：早稲田大学アジア太平洋研究センター太平洋問題調査会 (IPR) 研究部会『太平洋問題調査会 (IPR) とその群像』(早稲田大学アジア太平洋研究センター、2016年)『渋沢研究』第31号、2019年、135-137頁。</p> <p>齋川貴嗣「書評：飯森明子『戦争を乗り越えた日米交流—日米協会の役割と日米関係1917~1960』『インターカルチュラル』第17号、2019年、134-137頁。</p> <p>② 教育</p> <p>2020年2月9日から14日まで、台湾・台北において海外フィールドワークを実施した(参加者8名)。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>以下の通り学会活動に従事した。</p> <p>日本国際文化学会常任理事、年報編集委員</p> <p>日本国際政治学会国際交流分科会責任者</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2020年度は、第一に、科研費研究の最終成果として英文論文集の出版を実現したい。同時に、今回の共同研究を踏まえた新たな課題を設定し、科研費の採択を目指す。第二に、これまで資料の分析を進めてきたユネスコ設立史に関する論文を執筆し、学術誌に投稿する。</p>	